

母集団への適合状況検査（オプション検査）に類似する取組・論文等

オプション検査（1）（母集団への適合状況検査）

標本の基本属性区分（世帯：性・年齢階級別区分 等、事業所：産業分類・規模別区分 等）の構成比と信頼できる情報の構成比を比較し、乖離状況を時系列で確認する。

例えば、委託先の交替、回収率の低下などで急激に構成比の乖離が拡大している場合は、構成比が乖離していない場合を仮定して推定を行うなど、結果への影響の検証も併せて行う。

※ 必要に応じて設定された区分での特別集計を伴うなど、詳細検査を行う場合も想定。

（検査事項：標本と母集団の適合状況、検査内容：ヒストグラム比較、検査基準：時系列で見た際の急激な構成比の乖離の拡大）

期待される効果

- ◇ 回収率の低下等に伴う標本の偏りに伴う歪みのリスクを検知し、推定方法の見直し等を行うことで統計の正確性を確保できる。

18



家計調査における取組

- 世帯主の年齢階級別世帯分布を用いて推定した試算結果（参考値）

世帯主の年齢階級別世帯分布を用いて推定した試算結果(参考値)

世帯主の年齢階級別世帯分布を用いて推定した試算結果は、標準調査における回収標本の分布の歪みによる影響などの指摘に対応し、参考値として提供するものです。ここでは、二人以上の世帯について、世帯主の年齢階級別世帯分布に関して労働力調査の世帯分布を用いて補正した結果を試算しました。

- 世帯主の年齢階級別世帯分布を用いて推定した試算結果(参考値)(エクセル:49KB)

※具体的な計算方法は、家計調査の世帯主の年齢階級別の消費支出及び10大費目(第3-2表及び3-12表より、34歳以下、35～44歳、45～54歳、55～64歳、65～74歳、75歳以上の6区分)について、労働力調査の世帯分布(基本集計第4-1表より、二人以上の世帯について、当該月の前年同月～前月の12か月平均)をウェイトとして加重平均することにより算出しました。

試算に用いた推定式

$$X_M = \frac{\sum_a X_{aM} W_{aM}}{\sum_a W_{aM}}, \quad W_{aM} = \sum_{m=M-12}^{M-1} \frac{w_{am}}{12}$$

X:金額(家計調査の結果)

w:世帯数(労働力調査の結果、w=Mは当月(M月)の加重平均に用いる世帯数を示す)

a:世帯主の年齢階級(34歳以下、35～44歳、45～54歳、55～64歳、65～74歳、75歳以上の6区分)

m:月(m=Mは当月を示す)

データ

図表 消費支出の対前年同月実質増減率

[%.ポイント]

年月	(1) 参考値	(2) 公表値	(1)-(2) 差
2014年1	0.9	1.1	▲0.2
2	▲2.6	▲2.5	▲0.1
3	7.4	7.2	0.2
4	▲4.1	▲4.6	0.5
5	▲8.1	▲8.0	▲0.1
6	▲2.8	▲3.0	0.2
7	▲6.1	▲5.9	▲0.2
8	▲4.7	▲4.7	0.0
9	▲5.9	▲5.6	▲0.3
10	▲4.3	▲4.0	▲0.3
11	▲2.2	▲2.5	0.3
12	▲3.5	▲3.4	▲0.1
2015年1	▲4.5	▲5.1	0.6
2	▲2.7	▲2.9	0.2
3	▲10.6	▲10.6	0.0
4	▲1.5	▲1.3	▲0.2
5	5.6	4.8	0.8
6	▲2.2	▲2.0	▲0.2
7	0.6	▲0.2	0.8
8	3.6	2.9	0.7
9	▲0.1	▲0.4	0.3
10	▲1.9	▲2.4	0.5
11	▲3.0	▲2.9	▲0.1
12	▲4.2	▲4.4	0.2

図 世帯主の年齢階級別世帯分布の比較

